

書名：わたししんじてるの

作絵：宮西達也

出版社：ポプラ社

出版年月：2011年6月

総ページ数：40ページ

ISBN：9784591124611



推薦者

栗飯原良造

鳴門教育大学大学院教授

臨床心理士養成コース

宮西達也の絵本ティラノザウルスシリーズの中の1冊です。トリケラトプスの子ども“リケラ”とティラノザウルスのかかわりのお話です。“リケラ”の両親が地震で洞穴の中に閉じ込められます。みんなが助け出そうとしますが、上手くいきません。森一番の乱暴者のティラノザウルスなら両親を助けられると教えられた“リケラ”は、一人でティラノザウルスに会いに行きます。リケラは両親を助けてくれたら自分を食べてもいいと約束します。

両親を救いに来たティラノザウルスを森の仲間たちは“ずるくて怖い存在”として相対します。ただ一人リケラだけはティラノザウルスを信じます。苦勞してティラノザウルスはリケラとの約束を守って、リケラの両親を助け出します。リケラは去って行くティラノザウルスに向かって、「僕も約束を守るから、必ず帰ってきてね」と声をかけます。リケラは自分を食べていいと言う約束を果たそうとします。

さて、どうなったでしょう。ティラノザウルスが帰って来ると約束した場所で、何年待ってもリケラはティラノザウルスに会えませんでした。ある日リケラがその場所に行くと、リケラ親子がいつも食べている赤い実が一粒おかれていました。“リケラ”はティラノザウルスが置いたものだと感じます。

このシリーズは、弱者に信じ続けられた強者のティラノザウルスの行動変容がかかっている絵本です。心理学の専門書ではありませんが、カウンセリングとはどんなものかを知るための絵本です。心理学の専門書を読むことに疲れた方、心理学初心者の方、また実際に心理職として働かれている方へのお勧めの1冊です。

